

北海道医歌人会詠草

スケートボード

士別 竹内 幹夫

宙を飛び踵眼にして一閃す 姿無き翅虚空に羽搏く
街角の流行遊びを技に磨ぎ 競ひ手集め神へと捧ぐ
目標はみんなをあとと言わせない 純な思ひはメダルを超えて
リラックスして滑れたので勝てました 語る笑顔はただあどけなき
スローでしか判らぬほどの技の冴え 刹那刹那の跳びの凄さよ

願望

滝川 村田 英俊

この地球を取扱説明書読まずに使うなかれ 修理機材がそろそろなくなる
書簡には願ひ溢れたりその願ひは「核保有国」が死語になること
願ひしは秘かに育つウイルスト 共存できる日の訪れまし
いつまでか顔半分につき合ひは 長きに亘る自粛生活
無責任の世に居てほしい漫才師は「責任者呼べ」と言いし幸朗氏

めでたさ

江別 三宅 浩次

めでたさは令和の御代の降る雪の松ヶ枝に積む無限の白さ
降り摘みし雪一塊が音もなく雪の上に落つ今日も晴なり
闇あれば光もありしこの世には迷いの中にも光を探す
春遙か遠くもありし一筋の光求める北国の冬
新たな年には心引き締めて要らぬものなど蹴とばしてやる

松

札幌 浜島 泉

歳の市門の飾りを購ふに 形よき松を見出だしかねつ
門祝ひオンラインにて求むるに 稲穂がつきて松なしなりき
新玉の年の始めの車には しめ縄さげの習はしありし
落ち葉掃きドウダンツツジの紅が シラカバ溜まりの彩りとなる
若きらが抜き去り行くを較ぶるに 我が足取りは「やはり年寄り」

家族

釧路 兎玉 昌彦

障害児を夫婦で支え十余年このおらかさ、やさしさは何
くすりでは抑えきれない痙攣を一日一度は見守る歳月
明日のこと、十年先は分からないただ手を握り共に歩むと
車椅子おむつも乗せたワゴン車で北海道を想い出の旅
笑顔のせ早朝の出發「元気でね」一家が残した心のぬくもり

こき友へ

北広島 古屋雅三知

秋更けて虫の音聞こゆその先の赤らようちんの仄くらき灯火よ
去年の秋汝と通ひし店なれど今年に語る人とても無し
如月の我が職場に訃報あり 不慮の事故にて汝は還らじ
高校より今に到りし悪縁はまだまだ続くと思ひしものを
秋深し 通ひ慣れたる道なれど一人歩めば寒さ身に沁む

202211 淑気満つ

函館 水関 清

伸びる手に 己も伸びて抱え込み 平幕倒す横綱の技
幼犬と幼児が 追ひつ追はれつつ ワルツを踊る初雪の頃
進学の吾のこころに 寄り添ひし 列車の窓の燈火の色
毎年の学会で逢ふ顔映す ズーム画面に 思わずお辞儀
寄り添ひて草食む母と仔馬見ゆ 日高本線 絵笛の窓辺